

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年8月16日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.141】

JR総連は独善的な主張で「革マル浸透」の政府見解を否定！

JR総連は、8月3日の衆議院予算委員会における革マル浸透問題に関する審議などについて、8月5日付「JR総連通信 No.986」で「『革マル派浸透』風評流布・悪罵を許すな！」と題する反論を掲載した。しかし、「JR総連・東労組内に革マル派が浸透している」との論拠が政府の公式見解である、という肝心な点を無視し、すべては「悪宣伝や妨害」だと一方的、独善的な論理に基づく主張となっている。以下に、その一部を紹介したい。

第175臨時国会の衆議院予算委員会において3日、自民党の平沢勝栄議員が質問に立ち、「革マル派が浸透している認識」「その組織の代表を公認して議員を出したことは問題」といった問答が準備され、中井国家公安委員長や菅総理が答えるというシナリオで展開された。...(中略)...

5月には自民党の佐藤勉議員による『質問主意書』から、「JR総連には革マル派が相当浸透」とした『答弁書』を引き出し、それをネタに悪宣伝を繰り返すといった具合だ。並行して雑誌『治安フォーラム』では「真の姿を隠した革マル派の潜り込み」とした記事のほか、月刊誌『WILL』『新潮45』『週刊新潮』『産経新聞』などでも、JR総連・JR東労組の民主党・枝野幹事長パーティー券購入を「高額」だと偽り煽る悪宣伝や、96年に立候補した枝野候補との推薦『党書』を「魔の契約」などと喩え、「浦和電車区事件を起こしたY氏が推薦当時の委員長」など、えん罪事件を持ち出し「革マル派浸透説」の流布に躍起だ。...(中略)...それらJR総連やJR東労組、田城参議院議員への悪宣伝や妨害は、公正に選挙され、選出された国会議員や党への冒涇であると同時に、投票した人々を愚弄することに他ならない。JR総連は、国鉄改革を成し遂げ、アフガニスタンの復興に田城を中心にして携わり、障がい者支援や森づくりなど、ヒューマニズム溢れる労働運動を愚直に進め、組合員らとともに汗し涙し活動してきた。それらの活動が革マル派に侵食されているなどあるはずもなく、反社会集団と同一に言われる筋合いは一切ない。すべてはまじめな労働組合活動、平和や人権を守る活動を“良”としない輩からの悪宣伝・妨害である。平和や民主主義を壊そうとしているのはむしろその悪宣伝を担う輩ではないか。

革マル浸透問題にダンマリなJR総連の姿勢こそ国民への愚弄だ！

国会審議に対し「問答が準備され...シナリオで展開された」との記載は随分と不遜だが、彼らがいくら不満でも、答弁は政府の公式見解である。「『質問主意書』から『答弁書』を引き出し」ともあるが、「答弁書」も閣議決定された政府の公式見解だ。そして「治安フォーラム」等の刊行物は「えん罪事件を持ち出し『革マル派浸透説』の流布に躍起」とあるが、「えん罪」という認識も、政府の公式見解に基づく情報を「革マル派浸透説」と述べているのも、JR総連の勝手な主張に過ぎない。政府見解を伝えることは「悪宣伝」「妨害」ではなく、公益に適う重要な情報提供だ。なぜ「選出された国会議員や党への冒涇であると同時に、投票した人々を愚弄すること」になるのかまったく理解できない。政府見解の否定こそ「冒涇」であり、革マル派が浸透しているという治安上の重要な指摘に対し、何ら説明も解明もせずダンマリを決め込む姿勢こそ、民主党に投票した国民への「愚弄」に他ならない。「ヒューマニズム溢れる労働運動」を進めているから「革マル派に侵食されてい」ないという幼稚な説明で納得する者などいるはずがない。「まじめな労働組合活動、平和や人権を守る活動を“良”としない輩からの悪宣伝・妨害」とあるが、民主党政権もその「輩」に含まれるのか。身勝手に独善的な、実にJR総連らしい主張である。